

「Tomorrow is another day.」

マーガレット・ミッチェル作「風と共に去りぬ」を皆さん知っていますか？全5巻にもなる超大作です。この大長編の最終行のセリフが「Tomorrow is another day.」です。一般的には、「明けない夜は決してない」とか「明日は明日の風が吹く」との名訳が広く流布しています。

この「風と共に去りぬ」やエミリー・ブロンテ作「嵐が丘」など、外国文学を多数翻訳されている、翻訳家・文芸評論家の鴻巣友季子さんは「翻訳入門講演会」を全国で実施しているそうです。そこで出会った、熊本の高校生の翻訳は「Tomorrow is another day. 『とりあえず寝よう。』」です。

鴻巣さんが言うには、これはヒロイン、スカーレット・オハラのお癖であり、良い意味でもっと「いいかげん」な言葉、発音を変えれば「いい加減」「いい案配」の言葉だと言えます。スカーレット・オハラは、何一つ不自由のないお嬢様の境遇から、戦争を経て、明日の糧も手に入らない貧困にたたき落とされました。

あらゆる災いが降りかかってくるたびに、おまじないのように唱えるのが「Tomorrow is another day. 『とりあえず寝よう。』」です。

とにかく心が壊れてしまわないよう、「なにもかも明日考えればいいのよ。」と自分に言い聞かせる。これは過酷な現実と向き合うためのスカーレット流「あとまわし術」であり、現実逃避と言うより、「建設的な一時退避」と言えます。

苦しいとき、へこんだとき、このおまじない「Tomorrow is another day. 『とりあえず寝よう。』」を繰り返し唱えるのもいいかもしれません。

もしよろしければ、参考にしてください。

こうちょう やまぐちだいじ  
校長 山口大二